

日風集

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉第115号 令和4年(2022)3月31日

- 人魚之事
- 一 松平出雲ノ守様御領分越中ノ國
 - 二 在放生ノ淵四万ノ浦與業謂磯邊
 - 三 近二而一日五度浮出風波ヲ起依之
 - 四 漁事無之浦人共困窮不斜
 - 五 依之松平加賀守様御家来究
 - 六 竟ノ者共四百五拾人斗鐵砲ヲ
 - 七 以テ仕留漸文化拾四年丑ノ四月朔
 - 八 日二其ウナリ聲ノ響事ハ海上
 - 九 三里余ノ處迄震動也
 - 一〇 人魚ノ形者能々美人ナル女ノ形也
 - 一一 首ヨリ下モ者鯉ノ魚ノ形也
 - 一二 顔ヨリ首白キ事如雪也
 - 一三 口ハ銘ヲ附タル如ク也
 - 一四 腹赤キ事



人魚絵馬 (香美市須賀神社蔵)

如火也 髪長六尺八寸斗ノ身
長七丈三尺二寸

右古キ書ニヨリ写之

類に「諸願成就」昭和八年旧十月吉日ノ申ノ年 七十四歳ノ影山 永野寅太郎一と記す。

湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次)のものけミュージアム)蔵の「幻獣尽くし絵巻」には、文化2年に越中国に出現した11メートルもある悪魚が描かれており、やはり松平加賀守の家来千五百人が四五〇挺もの鉄砲で退治したと記されている。

資料見聞

初公開！人魚の絵馬

人間と魚が合体した姿の人魚は海の幻獣の代表格でしょう。県内には須崎市に伝説があります。大昔、漁師の網に頭は人間で胴体は魚という奇怪な生きものがかりました。その生きものの傷口をなめた女の子が不死となり、八百比丘尼やおびくにと呼ばれるようになりました。多ノ郷おのぶらの賀茂神社の石の塔(鎌倉時代後期の十三重塔)はその八百比丘尼が寄進したものとされています。

その生きものはどのような姿をしていたのでしょうか？私の知る限りでは、高知県には人魚の姿を描いた民俗的な絵画は2点あります。ひとつは一昨年『岡豊風日』110号で紹介した「姫魚ひめうお」です。肥前の国(長崎県)に出現し、疫病を予言し、自分の絵姿を見たものはその災いから逃れることができるだろうと言って海中に姿を消したと記されています。新型コロナウイルスの感染拡大とともに大流行したアマビエの仲間です。もうひとつが今回はじめてご紹介する絵馬です。美しい顔立ちに長い黒髪で色っぽい姿ですが、下半身は魚です。右上には「人魚之事」と題し、文化14年(1817)に越中の国に現れたと記されています。

人魚が出ると不漁になって漁師が困窮したので、鉄砲で撃ち殺したところ、そのうなり声で三里(約12キロ)向こうまで振動したとあります。「身長七丈三尺二寸」とあるので約14メートルの怪物です。絵馬が神社に奉納されたのは昭和8年(1933)。「古キ書ニヨリ写之」とあるようにこの話を描いた他の資料が他県にあります。ですが、なぜ人魚の絵馬を奉納したかは謎です。

(梅野)

特別展

「驚異と怪異 —世界の幻獣と霊獣たち—」

会期：令和4年4月29日(金・祝)～6月26日(日)

梅野 光興



③ 悪魔踊りの仮面と衣装 (ボリビア)
マントなどにドラゴンがほどこされている。



① 灯笼 [辰] (中国)



② 石像 [セドゥナ] (カナダ)
制作者：デイヴィッド・ルーベン・ピクトウケン
アメリカ極北圏に住むイヌイットのアーティストの作品。セドゥナは、アザラシやセイウチなど海の哺乳類を支配する女神。ヒレはアザラシである。



④ 水虎様 (青森県西津軽郡)
水虎は中国における川辺の幻獣の呼称で、日本の河童が水虎のこととされた。水虎信仰が盛んな津軽では、河童姿の水虎様が祀られている。

当館では「仮面の神々」(平成4年)、「死と再生の文化」(平成7年)、「鬼」(平成17年)、「いざなぎ流の里・物部」(平成28年)などの企画展で高知県の人々が考え、生み出してきた神や仏、精霊たちを紹介してきました。そして平成15年の特別展「あの世・妖怪・陰陽師 —異界万華鏡・高知編—」では、国立歴史民俗博物館の巡回展を招致し、日本の地獄や妖怪、幽霊などを紹介し、好評を博しました。そして今回はついにその対象を世界に広がります。

■ 「驚異と怪異」展の概要
本展は、大阪の国立民族学博物館が令和元年の秋に行った特別展「驚異と怪異」の巡回展です。

国立民族学博物館は、昭和52年(1977)に世界の諸民族の文化を研究・展示する施設としてオープンし、今年で開館45年目を迎えます。暮らしや仕事の道具に加え、神像や仮面、宗教学など祭りや信仰に関する資料も多く収集しています。本展は、その中から、人魚、龍、獅子などの幻獣、霊獣、怪獣、精霊たちを一堂に集めた展覧会です。世界の多様な風土や文化が生み出した不思議な生きものたちを「水」「天」「地」などその活動空間によって分類しています。

■ 「水」の幻獣

広大な海や川は、人間が生きていけない領域で、その不可視の世界に何かが棲んでいると考えられていました。「水」の主役は人魚や龍です。世界中で人間と魚の合体した怪物が目撃されています。イタリアの『怪物誌』(1642年刊)には人面魚のような不気味な姿が描かれています(⑩)。カナダのセドゥナは先住民族のイヌイットが伝えるもので、アザラシやセ



⑧舞踊劇コーラムの仮面
【ナーガ魔神】(スリランカ)



⑦バロンドダンスの衣装 [ランダ]
(インドネシア・バリ島)



⑤ガラス絵【天馬ブラーク】(セネガル)



⑨悪魔仮面 (メキシコ)



⑥木彫【ワシの精霊】
(マレーシア)

※2、3頁は全て国立民族学博物館蔵 撮影：①・②・④～⑨大道雪代、③藤原一徳

イウチなどを支配する半人半魚の女神です(②)。

龍は中国や日本と、西洋ではその姿が異なります。中国などの龍は、蛇のような細長い体で、頭に角があるいくつかの顔をして手足があります(①)。水中に棲み、雨乞いの対象となります。西洋の龍はドラゴンの名で知られ、形はトカゲ型と翼をもつ鳥型に分かれます。水中にもいますが、地中や洞窟にも住んでいます。

また、日本の水中の幻獣として身近な存在は河童でしょう(④)。土佐ではエンコウと呼ぶのが一般的です。エンコウの伝えた薬が四万十町などに伝えられていたり、エンコウも現実と地続きの存在でした。

■「天」の幻獣

自力で空を飛べない人間にとって、天も手の届かない領域でした。物語世界では怪鳥や天馬など翼を持つ幻獣が我が物顔で飛び回ります。イスラム世界の預言者ムハンマドは、ブラク(稲妻)と呼ばれる天馬に乗って天界へ飛翔したとされています。セネガルのガラス絵ではブラクは女性の上半身と馬の胴体をもつ合成獣として描かれています(⑤)。

日本では何と言っても天狗です。高知県でも天狗にさらわれて空を飛んだ

り、行方不明になったという話が各地に残されています。天狗の姿形は今だと鼻の高い山伏姿でイメージされますが、時代をさかのぼると鳥の姿だったようです。本展では中国の天狗資料を紹介しますが、中国ではそもそも凶事を知らせる流星を意味していたようです。大気圏に突入して爆発し、大音響を発する隕石が、吠えながら天を駆け降りる犬(狗)に見立てられたもの

ようです。

■「地」の幻獣

地上においては山や森、地の底が精霊や魔物、未確認生物のすみかと思われました。ヨーロッパでは狼男などがメジャーでしょうか。

手足が無くニョロニョロ移動する蛇はとりわけ神秘的な存在と考えられており、さまざま所で活躍します。スリランカのナーガ魔神は、コブラを頭につけた強烈さですが、邪神であるとともに守り神にもなります(⑧)。メキシコ・ナワ族の悪魔仮面は、顔とサソリや蜘蛛との融合体でホラー映画も真っ青の毒々しい迫力に満ちています。その中でもヘビは重要なモチーフです(⑨)。日本では狐や狸が近くの山や森にいて人間をだましたり、いたずらをすると考えられていました。四国には狐が少なかったので、狸が幅をきかせています。

■驚異とは？怪異とは？

それにしても、現代では存在しないとされているおびただしい数の幻獣や霊獣たちを世界中の人々が生み出してきたのはなぜでしょう？

ヨーロッパや西アジアでは、まだ未知の大陸や海があると考えられていた頃、人魚や一角獣は世界のどこかにいるかも知れない「驚異」として扱われました(⑩⑪)。これらは空想として否定されるのではなく、神の偉大な創造物とされ、自然界の知識体系の一部に組み込まれていきました。当時の地

図や博物誌には実在の生物とともに、ヒュドラや人魚が描かれています。

一方、日本や東アジアで使われてきた「怪異」は、今では妖怪や幽霊のことと思いがちですが、古代の日本では、天皇の身体や政治に関わって神仏が送った危険信号と考えられていました。鳥が群がったり奈良の大仏が水に濡れたりという出来事があると都に報告され、神祇官じんぎくわんと陰陽寮おんやうりょうの占い師が、怪異か否か、メッセージを送った神仏は何で何の予兆かなどを判断します。そして神仏にわびるなどの対処法をとることで、未然に災害や疫病を防ぎました。



⑩ヨハネス・ヨンストン「動物図譜」(オランダ・1718年刊)より一角獣(国立民族学博物館蔵)



⑪ウリッセ・アルドロヴァンディ「怪物誌」(イタリア・1642年刊)(国立民族学博物館蔵)

一神教世界の驚異は未知の世界の不思議なもの、東アジアの怪異は身近でも起こりうる常ならざる出来事と、ざっくりと定義できません。ただ、それぞれの地域で、驚異や怪異の文化は変容してきました。怪異の場合は、中世になるとその原因が神仏だけでなく、猿・鹿・狸・蛇の合獣である鶴たづのような得体の知れない怪物などに拡大し、朝廷のコントロールできざるものではなくなくなっています。

江戸時代になり世情が安定すると、怪異は娯楽へと大きく展開し、幽霊の登場する怪談や狐狸変化が活躍するユーモラスな話が書物や口承で楽しめるようになります。こうして、怪異や妖怪を迷信として否定した近代を経て、現代ではマンガやアニメ、映画など現実と切り離されたフィクションの中で怪物たちの活動場所になりました。娯楽への変化は一神教世界の「驚異」も同様です。

現代ではフィクションの領域を活動場所にする幻獣たちですが、元々は現実世界に根ざしていたことがわかります。情報の無い世界や、説明のつかない現象を解釈する過程で、想像力の産物である怪物がうごめき始め、また狐や狸のような実在する動物であっても不思議な力をもった幻獣へと変身していくのです。



⑫牛鬼図(香川県高松市根香寺蔵)



⑬牛鬼の角(香川県高松市根香寺蔵)

■現実を侵犯する想像力

一昨年一世を風靡したアマビエやその仲間の幻獣たちは瓦版などの摺り物として広まりました。具体的な年月日と場所を記し幻獣の出現を告げる瓦版は、複数集めてみるとワンパターンだとわかりますが、一枚だけ見た当時の人々は、半信半疑ながら、肥前や肥後など江戸や大坂から遠い所だとそんな生きものもいるかも知れないと考えた人も中にはいるかも知れません。

また、江戸時代にはこれら幻獣のミイラも作られ、見た人に一定のリアリティを感じさせたと思われまます。今回は、湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次ものけミュージアム)や香川県の金刀比羅宮のご協力を得て、烏天狗や人魚のミイラをご紹介します(⑮)。香川県高松市の根香寺には牛鬼退治の伝説があります。その角と牛鬼の絵も

展示します(⑫⑬)。

科学が発達した昭和時代にも幻獣は死んでいませんでした。前号の『岡豊風日』でとりあげたように、広島県庄原市のヒバゴンは目撃者が相次ぎ、マスコミの取材が殺到しました。世界に視野を広げるとネッシーや雪男、日本のツチノコなどのUMA(未確認生物)も幻獣と言えるでしょう。



⑭土州奇獣之図并説
(湯本豪一記念日本妖怪博物館
(三次もののけミュージアム)蔵)

土佐でも四万十川の河口付近で河童が捕まったという話が事実として流布していたり、笑い女やケチ火といった怪異(妖怪)が、現実と空想の間を行き来して、当時の人々を楽しませていました。

「いもしないものを信じるなんて昔の人は科学が発達していなかったのでも無知だったからだ」と言うことも可能でしょう。ですが、これら想像界の住人たちを、追い払った現代がどのような状態か考えてみてください。

現代人である私たちの心が、何となくかわききってザラザラして味気なくなってしまうような気がするの、もしかすると彼らを現実世界から追いやってしまったからではないでしょうか。一方で、小説や映画やアニメやゲームの中で怪物や妖怪や幻獣たちがこれでもかと言わんばかりに生み出されているのは、私たち人間が、彼ら想像界

の住人たちを必要としているからではないでしょうか?

この世界に命を吹き込むためには、水、天、地の住民たちをこの世界へ召喚するべきなのではないか?そんなことを夢想したりもします。

⑮烏天狗ミイラ
(湯本豪一記念日本妖怪博物館
(三次もののけミュージアム)蔵)



県立美術館との連携企画

世界不思議ミュージアムが開館します!~

特別展「驚異と怪異」が終盤にさしかかる6月18日(土)から高知県立美術館で企画展「佐藤健寿展 奇界/世界」が始まります(9月11日まで)。

佐藤氏は、UFOが落ちた町、死体を展示する博物館、地獄のテーマパークなど世界中の怪しげでディープな場所を訪ね、「奇界遺産」という本にまとめた写真家です。各地の民族の祭りや風習も追いかけ、高知県でもいざなぎ流や介良UFO事件を取材されています。

一見、「驚異と怪異」とはそれほど関係無さそうですが、佐藤展に出品されるユニークなアフリカの棺桶が民博コレクションだったり、佐藤展の図録に「驚異と怪異」展の生みの親・山中由里子先生が寄稿されたり、二つの展示は磁石が吸い寄せられるように引きつけ合ってきました。佐藤氏が切り取った奇妙な世界と、民博コレクションに見る世界の不思議な表象は、文化の多様性や想像力の面白さをシャワーのように浴びるといふ点ではピンピンに通じ合っているのです。

そこで、県立美術館と県立歴史民俗資料館は協力して「世界不思議ミュージアム」をオープンします(あくまで企画としてですよ、念のため)。このミュージアムは単に「驚異と怪異」と「奇界/世界」をあわせたものではありません。二つの展示を核にして、いくつかの催しを体験した時に浮かび上がる、あなただけの、どこにもないミュージアムです。そんなミュージアムを作るためのツールとして「不思議手帖」を展示会場で配ります。奇怪なスタンプを集めていくうちに、世界が広がるはずですよ。

連携企画として、当館でのオープニングトーク、山中由里子氏と佐藤健寿氏の対談クロストークも予定しています。8月20日・21日には県立美術館ホールで「奇怪な映画」と題した上映会を開催。異世界を切り紙アニメで具現化した「ファンタステイック・プラネット」などユニークな映画が堪能できます。二度とない企画(多分)をぜひ体験してください。今年の歴史民俗と美術館はちよつとアヤシイ!のです。



《マトリョーシカ・ホテル/中国》
2018年 @KENJI SATO

日讚と龍乗院・見龍院

石畑 匡基

一乗山大中寺龍乗院は、高知県では数少ない天台宗寺院の一つです。開山は、日讚永厳という山内家が帰依した僧侶です。

日讚は、常陸国（茨城県）の出身ですが、掛川城（静岡県掛川市）城主の時代に山内一豊の帰依を受けました。慶長5年（1600）に関ヶ原合戦の功績によって一豊が土佐国を拝領すると、それに同行して土佐に入国し、翌年には現在の高知市潮江の周辺に龍乗院を開いたと伝わっています。

慶長10年に、一豊から養子の忠義が山内家を継いでも変わらずに帰依を受けました。龍乗院は日讚の寺であると、誰もが認識していたために、「日讚寺」とも呼称されており、慶長17年8月には寺内の竹木や石を勝手に採ってはならないと定めた制札を与え、保護を加えています。

日讚は大変長命なことで知られており、寛永8年（1631）11月6日に死去したときの年齢は164歳であったと位牌に刻まれています。大変長命であるということから、多くの伝説を残しています。例えば、徳川家康が帰依した僧侶で有名な天海和尚と「同学」

であったとか、忠義が天海と対面した際には、いつも日讚の話が出て来たという伝承が残されています。天海は、寛永20年（1643）に108歳（98歳とも）で没したとされています。したがって、同時期に修行していたとすると、日讚の方がかなり年長であったとみられますが、真相は不明です。

また、慶長20年（1615）の大坂夏の陣では、日讚は「天台山」（比叡山延暦寺のことか）において、豊臣方の武将である「真田幸村」への使者となったとあります。

没年を含めて伝説の多い人物ですが、実在したことは確かなようで、死後に作成された画像が龍乗院に残されています。そして、山内一豊が入国してすぐのころは諸宗派同士の相論が絶えなかったため、日讚が指図するようにと命ぜられたようです。実際に、山内忠義が発給した文書からも熊野神社（和歌山県御坊市）への護摩祈禱を依頼する際には、日讚から助言を得るようにと家臣に指示を与えています（「長帳」高知県立高知城歴史博物館蔵）。

さらに、日讚は龍乗院以外の開山にも関与しています。その一つが陽貴山

国清寺見龍院です。幕末に編纂された地誌の『南路志』によると、同寺院は元和3年（1617）に日讚を開山として山内忠義によって建立されたとい

います。寛永18年（1641）に、掛川神社（高知市薊野）が現在ある場所に午頭天王社が遷宮されると、その宮寺となり、支配に関与しました。明治になると、同じ開山という縁から見龍院が龍乗院に合併されると、寺宝や位牌が龍乗院に移されて、現在まで大切に伝えられています。

その寺宝とされるのが、「瀬上りの太刀」（龍乗院蔵当館寄託）です。伝来の経緯については諸説ありますが、ここでは、見龍院が「瀬上りの太刀」伝来の内容を紹介します。

現在、龍乗院に残されているこの控えによると、伊野村（いの町）に残されていた曾我五郎ゆかりの太刀と不動尊絵像のことを聞きつけた山内忠義が

召し上げて、日讚に与えたといっています。このうち不動尊絵像は、平安時代前期の画家である巨勢金岡が描いたものと、秘仏としていたようです。

この太刀と絵像は曾我五郎の師匠である箱根別当が手にし、所持したまま土佐国内で隠居するに至ったといえます。しかし、「霊怪」があるため、誰の手にも渡らず、そのままになっていたとされています。それを波川という武士が手に入ると常に所持して、たびたび功名をあげました。特に、ある時には川中での戦いで太刀が蛇に姿を変えて川の瀬を上って敵を追い払ったとされており、以降、この太刀を「瀬上りの太刀」と名付けたと伝えられています。

この太刀を忠義に与えた日讚も、この太刀そのものも不思議な伝承を持っています。それが土佐の歴史を豊かにする要素になっていることは間違いないありません。



日讚画像（龍乗院蔵）

天然写真家 前田博史写真展
さくらはくら 2022

令和4年
3月19日(土)～
4月10日(日)

押し花作家・杉野宣雄氏、
ガラス工芸作家・岡崎壮氏
とのコラボ展示も!



岡豊山フォトコンテスト

先行応募

3月19日～4月10日

(ケータイ・スマホ部門のみ)



民家で囲炉裏の火焚き

毎月第3土曜日(4・12・3月を除く) 9:30～12:00

お知らせ

展示替えなどのため、
下記のとおり変更します。



- 4月20日(水)～28日(木)
長宗我部展示室のみ開室
大人(18才以上)250円・団体(20人以上)200円
- 4月29日(金・祝)～6月26日(日)
特別展「驚異と怪異」
大人(18才以上)800円・団体(20人以上)640円
- 6月27日(月)～7月2日(土)
全面休館
- 7月3日(日)～7日(木)
長宗我部展示室のみ開室
大人(18才以上)250円・団体(20人以上)200円

【おわびと訂正】

『岡豊風日』114号8頁の特別展「驚異と怪異」のお知らせ欄で、悪魔仮面の撮影者を大道道代氏としておりましたが、大道雪代氏の誤りです。記しておわびいたします。

岡豊風日(おこうふうじつ) 第115号
令和4年(2022)3月31日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-11
TEL 0888-862-2211
FAX 0888-862-2110

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館 6月27日～7月2日

観覧料 (通常展)大人(18才以上)470円
団体(20名以上)370円
(企画展・特別展)別途表記

無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)

印刷・川北印刷株式会社

https://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

特別展 驚異と怪異

—世界の幻獣と霊獣たち—

令和4年4月29日(金・祝)～6月26日(日)

国立民族学博物館の資料を中心に世界各地の人々が生み出した不思議な生きものたちを紹介します。



仮面「虎」(マレーシア)

特別展関連催し

- ①講演会「幻獣・霊獣・怪獣—人はなぜモンスターを想像するのか?—」
日時: 5月22日(日) 14:00～16:00 先着60名
講師: 山中由里子氏(国立民族学博物館教授)
- ②講座「土佐幻獣セミナー」 講師: 梅野光興(当館学芸員)
日時: 5月8日(日) 地の章、6月4日(土) 水の章、
6月25日(土) 天の章 各日14:00～15:30 先着60名
- ③ワクワクワーク「コラージュで自分だけの生きものをつくろう!」
講師: 山本明子氏(絵画教室主宰)
日時: こども向け 5月29日(日) どちらも14:00～16:00、
おとな向け 6月26日(日) 各回定員15名
動物や植物の写真、昔の図鑑の絵などを切り貼りして世界に一つだけのオリジナルの生きものを作ろう!
※ハサミ等を使用しますので、小学生未満のお子様は保護者様もご一緒に参加をお願いします。
- ④担当者によるミュージアムトーク
5月3日(火・祝)、29日(日)、6月18日(土)
5月29日は13:00～、他は14:00～
※すべて要観覧券、①～③は要事前予約

「驚異と怪異」展関連

歴史館×美術館コラボ企画

世界不思議ミュージアム

- スタンプラリー
特別展「驚異と怪異」と世界の奇妙な風景を写した高知県立美術館の写真展「佐藤健寿展 奇界/世界」(6/18～9/11)、美術館ホールの「奇界な映画」(8/20.21)、そして奥物部美術館企画展「いざなぎ流御祈禱」(～9/30)をつなぐスタンプラリーを開催します。
- オープニングトーク
「ようこそ!世界不思議ミュージアムへ」
4月29日(金・祝) 14:00～15:30
先着: 60名 要申込・観覧券 当館多目的ホール
朝倉芽生(県立美術館学芸員)×梅野光興(当館学芸員)
- 奇界/世界/想像界
山中由里子(国立民族学博物館)×佐藤健寿(写真家)クロストーク
6月19日(日) 14:00～16:00
先着: 60名 要申込・観覧券 当館多目的ホール
申込方法: 5月18日(水) 10時よりお電話にて申込受付
申込先: 高知県立歴史民俗資料館(088-862-2211)
後日ウェブ公開予定(申込不要)

れきみん「驚異と怪異」展関連特別企画
ワンダーデイズ

4月29日(金・祝)、30日(土)、
5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、7日(土)、8日(日)
開館記念日の5月3日は入館無料!

世界のキッチンカー、獅子舞公演、幻獣クイズなど。

4月29日～5月1日の来館者、れきみん公式インスタフォローで
カップマスク進呈(各日先着100名)



若武者
もとちかくん